

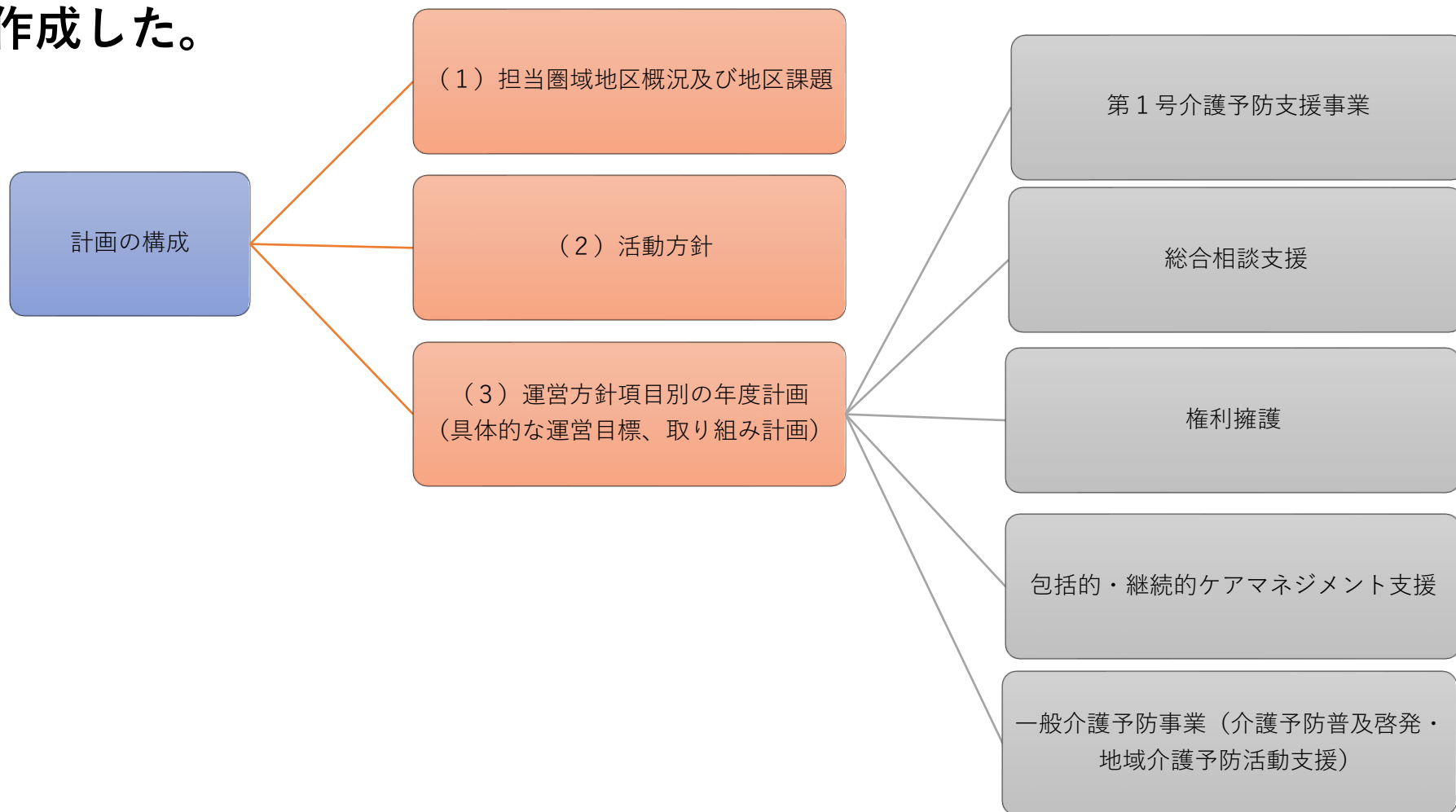
【資料3-1】

令和8年度千葉市あんしんケアセンター 運営事業計画について

地域包括ケア推進課

1 計画の構成

「令和8年度千葉市あんしんケアセンター運営方針」に基づき、各あんしんケアセンターにおいて、令和8年度の運営事業計画を作成した。



2 運営事業計画 項目別-1

第1号介護予防支援事業

- 生活支援コーディネーターと連携し、社会資源を把握する。
- 個々のニーズに合わせて、インフォーマル資源も効果的に提供する。

総合相談支援

- 複合的な課題を抱える世帯について、関係機関と協働しながら包括的な支援を行う。

権利擁護

- 成年後見や消費者被害等について、チラシ配付や講座を開催する。
- 高齢者虐待については、行政機関等と連携し、迅速かつ適切な対応をとる。

2 運営事業計画 項目別-2

包括的・継続的 ケアマネジメント支援

- 地域課題の分析するために、地域ケア会議を開催する。
- 地域の介護支援専門員と連携していけるよう、関係機関とのネットワーク構築を図る。

一般介護予防事業（介護予防普及啓発・地域介護予防活動支援）

- 市民の健康意識の向上やセルフマネジメントの実現に向けて、フレイル予防などに関するイベントを実施する。

3 運営事業計画

(各あんしんケアセンターの活動目標、取り組みのポイント、アピールしたい点)

①中央区

弁天	地域訪問を重ね、地域団体や関係機関とのネットワークを深める。身寄りのない高齢者、高齢者夫婦、社会的に孤立した世帯等の把握と支援を継続する。社会的孤立・孤立死の防止、および情報格差の解消を目指す。高齢者福祉以外の関係機関とも連携を強化し、終活・障害・経済的困窮等に関する施策の周知や啓発に努める。
中央	地域ケア会議等を開催し、関係機関と連携して複合的課題の解決とネットワーク構築を図る。困難事例には包括3職種で連携し協働支援にあたる。また、介護予防支援では初回訪問やモニタリングを通じて適切なケアマネジメントを実施し、インフォーマル資源をプランへ反映させることで自立支援を推進する。
千葉寺	高齢者のセルフケアと健康意識の向上を目指し、総合相談や測定会、講座等を通じて住民の自立への意欲を高めるよう支援する。誰もが住み慣れた地域で心身共に健康を保ち、自分らしい暮らしを末長く継続できるよう、地域に寄り添ったセンター運営を推進する。
松ヶ丘	高齢者自身が介護予防の必要性を自覚し、積極的に介護予防の取組みに参加できるよう、普及啓発に取り組んでいく。複合的な課題を抱えている方が早期に支援機関につながるよう、関係機関と連携しながら、多世代に向けた周知活動を行っていく。
浜野	〔活動目標〕周知活動の拡充。〔ポイント〕地域住民に相談しやすい環境を提示し、地域課題を共有し解決に向けての検討を進めるために、わかりやすい周知活動を継続する。〔アピール点〕多世代に向けた周知活動として、関係機関と協働で「はまフェス2026」を開催することが決定している。

3 運営事業計画

(各あんしんケアセンターの活動目標、取り組みのポイント、アピールしたい点)

②花見川区

こてはし台	地域ケア会議やイベント等を活用し地域や関係機関との連携を構築し、予防の意識を高めると共に早期発見の仕組みを強化する。また、地域の中で認知症や介護等に関する情報共有や知識を深める場を設けることで、地域力の向上をサポートする。
花見川	目標：地域住民や地域団体、機関、サービス事業所等と見守りの効いた地域づくりを進める。 ポイント：地域ケア会議や地域運営委員会を通じて課題の洗い出しと共有を進め、生活支援コーディネーターや他機関と共同して地域活動の充実を図る。
さつきが丘	当事業所は出張講座の依頼があった場合、必ず希望にそって講座を開催している。今年度は昨年度開催の出来なかった終活講座を必ず開催したい。また、それ以外の講座開催が出来るよう、地域住民および活動団体・事業所に対し、講座開催に関する普及啓発活動を行っていく。
にれの木台	事業周知を継続し、潜在化している困り事が相談につながるよう取り組む（主にセンターから遠方の畑地区）。相談から課題を抽出し、解決を目指す際には地域ケア会議を積極的に活用する。令和7年度に抽出した「坂道や階段のある町」の課題解決に向けて、地域リハビリテーション等と協働する。
花園	あんしんケアセンター花園がより身近な相談窓口になれるよう周知活動に力を入れる。地域の活動に積極的に参加し、介護予防や消費者被害防止等の啓発活動を行いつつ、あんしん花園の周知も行う。また、総合相談では、迅速な対応を心掛け、包括3職種の専門性を活かした的確な支援ができるようスタッフの質の向上を目指す。
幕張	複合的課題を抱える対象者やその家族について、多機関・多職種・地域住民と横断的な対応にて家族全体の支援が出来るよう取り組む。一つ一つの個別地域ケア会議を積み重ねることで、地域課題を抽出し、地域に還元していく。

3 運営事業計画

(各あんしんケアセンターの活動目標、取り組みのポイント、アピールしたい点)

③稲毛区

山王	高齢者人口の増加から相談数や介護保険サービス利用者数が増加しており、介護予防や自立促進の重要性が増している。地域ケア会議を活用し、高齢者や地域が主体的に介護予防や自立促進に資する取り組みが行えるようにしていく。
園生	誰もが孤立することなく住み慣れた地域で最期まで暮らしていけるよう、センター職員のみならず医療・障害・企業など様々な分野の方と連携を図り、チームとして対応していくことを目指す。
天台	複合的な問題を抱えた世帯に対応する為、今年度も引き続き様々な支援機関と連携を図りながら支援体制を構築していく。医療や介護の支援機関以外にも、児童や若者、障害者、経済困窮の相談窓口、自治会や民生委員、一般企業等とも連携を図り、幅広い問題に対応する事が出来るように総合相談機関としての強化を図る。
小仲台	高齢者という切り口だけではなく、日本人だけではなく日本語を母国語としない住民の文化的な理解も図りながら、住民に対して自助、共助への意識を高めると共に、地域包括ケアシステムの深化を進める。
稲毛	多くの方に介護予防の必要性を知ってもらうことやあんしんケアセンターの周知が図れるよう、各団体とのつながりを強化し、地域のイベントに参加したり介護予防教室等で地域課題に沿った内容を企画し実行していく。そして地域のイベントでは企画から参加し多世代交流が持てるよう、各々の居場所づくりができるよう取り組んでいく。

3 運営事業計画

(各あんしんケアセンターの活動目標、取り組みのポイント、アピールしたい点)

④若葉区

みつわ台	地域ケア会議にて上がった地域課題に向けて自治会や民生委員、企業等と連携し、個々にあった支援を検討し、実施していく。
都賀	住民一人ひとりが介護予防の意識を持ち、人生の最期まで望む暮らしを続けられるよう、包括3職種と生活支援コーディネーターが連携し、地域特性の把握を進めながら総合相談支援の質向上と住民主体の活動支援を推進する。
桜木	高齢者に関する課題や相談には、地域住民や支援機関の協力を得ながら、迅速で丁寧な対応を行う。また、内容に応じて専門職が複数体制で知識や技能を活かし支援することが必要である。さらに、関係機関への報告・連絡・相談を密に行い、本人・家族の意向を尊重した支援を展開していく。
千城台	高齢者が健康で住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、多様化する支援ニーズに対して包括3職種が関係機関と連携し、課題解決に向けて適切な支援を行う。また、増加している介護保険の相談に対しては必要な支援を行うとともに、介護を必要としない状態をできるだけ長く維持する健康寿命増進に向けて介護予防普及啓発活動に注力する。
大宮台	7年度より開始した出張相談が白井地区の住民に気軽に利用していただけるよう、広報の仕方を工夫する。地区部会や自治会と連携し、自治会館で行われている『いきいきサロン』や自治会の集まりに参加して周知活動やミニ講座を行い、住民にとってより身近なセンターを目指す。

3 運営事業計画

(各あんしんケアセンターの活動目標、取り組みのポイント、アピールしたい点)

⑤ 緑区

鎌取	<ul style="list-style-type: none">・高齢者支援のネットワーク強化を目的に地域ケア会議等を開催し、関係機関と課題の共有及び支援方法について協議する。・自立支援に関する実践力の向上、新たな地域資源の開発等を目的に自立促進ケア会議の内容の充実を図る。・生活支援コーディネーターと連携し、高齢者と地域資源とのマッチングを行う。
誉田	<ul style="list-style-type: none">・気楽に相談ができるように、出張相談会を定期的で開催する。また、困難ケースについて適宜、地域ケア会議を開催し、関係機関等とも連携がスムーズに行えるよう取り組む。・介護予防や健康に関する情報を伝え、地域住民のセルフケアマネジメントの意識を高める。
土気	高齢者やその家族が抱える複雑多様化する生活課題に対して多職種、関係機関と協働し、世帯全体を包括的に支援する体制づくりに取り組む。また、個別事例の支援を通じて関係機関同士のネットワークの強化を図る。

3 運営事業計画

(各あんしんケアセンターの活動目標、取り組みのポイント、アピールしたい点)

⑥美浜区

美 浜 区	真砂	①高齢者のセルフマネジメント：はなまるカレンダーの活用、新聞エコバッグ作りを通じ、自宅中心の生活でも社会との繋がりを持つ。 ②認知症施策の推進：認知症サポーター養成講座を開催する。 ③ケアマネジャーの支援：手順書によるケアプランへの指導助言や、アンケートによりニーズを把握する。 ④現役世代への介護予防・重度化防止に関する普及啓発や企業内座談会を開催する。真砂コミュニティふれあいまつりでブースを出店する。
	磯辺	・高齢者が自身の状況を確認できるよう、いきいき活動手帳を活用し、体力測定やセルフケアマネジメントの基礎知識、活動を周知する。 ・LINE等のSNSや情報誌を活用し、生活支援コーディネーターと協働しながら、介護予防等に関する普及啓発を毎月実施する。
	高洲	①普及啓発活動の成果により、センターへの来所相談が増えている。突発的な来所や職員不在時の対処を柔軟に行い、それぞれの利用者に即した対応を行っていく。 ②地域住民の高齢化に伴い担い手不足が生じ、サロンやNPO法人の閉鎖が生じている。生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の発掘、調査に努めていく。
	幸町	関係機関と連携を図りながら、幸町の強みを生かし地域課題の解決に向けた取り組みを行う。